

第11回障がい者スポーツ指導者協議会全国研修会(東京)参加報告

平成 27 年 11 月 21~22 日、首都大学東京荒川キャンパスにおいて実施された全国研修会に参加しました。

全国各地から、約180名の会員が参加していました。研修会は、主催者の日本障がい者スポーツ協会山田常務理事の挨拶、そして関係機関の来賓挨拶の後、開講となりました。

まず始めに、「スポーツ庁設置における障がい者スポーツのこれから(位置づけ)」—2020年に向けて—と題する、スポーツ庁健康スポーツ課障害者スポーツ振興室田中聡明室長の基調講演がありました。講演では、本年10月に鈴木大地長官を迎え設置されたスポーツ庁の役割などについて説明されました。2020年東京パラリンピックに向けての取り組みは元より、その後の障がい者スポーツも重要であること、これまでのスポーツ基本法(昭和36年制定)は、スポーツの振興を目的としてきたが、平成23年5月からは、スポーツを通じた社会発展を目的としていること、すなわちスポーツの力を利用して社会の発展を目指していること、その為には、現在の障がい者スポーツの現状を把握し、当事者はもとより取り巻く社会環境の改善、人材の育成、諸活動の充実を図ることが必要とされている現状などを話されました。

その後、7つの分科会に分かれ、それぞれのテーマで講義や実技、グループワーク、グループ発表などが2日間に渡り実施されました。

私は、第5分科会「トップコーチに学ぶ初心者・ジュニアスポーツ指導」に参加しました。講師は、和歌山県立医科大学の三井利仁さんでした。

現在、私も数人の選手を見ている事から、選手の育て方や新たなトレーニング法など参考になる情報などいかがえればとの思いで参加しました。

今回、研修会に参加したことで、障がい者スポーツに対する自分の考え方やアプローチ方法、そして方向性などが間違っていないことを再度確認することができました。また、地域で障がい者スポーツを積極的に進めて行くことの必要性や、指導者と障がい者の関わり方などを学ぶことができ、これからも障がい者スポーツの普及にできるだけ貢献してゆきたいと思いました。

今回は、急きょ参加することを決めたため、東京都内の宿泊施設の手配の難しさや、高額な宿泊料金を実感したのと同時に、「バリアフリー」に対するホテル関係者の認識の甘さを痛感し、大変苦労させられました。これから2020東京パラリンピックに向けてあと5年、「おもてなし」は心だけでなく、バリアフリーやユニバーサルデザインといった物理的現実的な「おもてなし」へと進化していくことを強く期待しています。

